

パパ・スイッチ事業を通じてダメパパから脱却

活動地域（北海道芽室町）

男性のプロフィール

氏名：尾岸 信さん

年齢層：若年層（20～30歳代）

活動概要：芽室町の父親支援事業「パパ・スイッチ事業」の実行委員となったことを機に、地域活動に積極的に参加。実行委員メンバーは12名。

活動開始のきっかけ

「イクメンの星」と出会い、「自分を変えたい」との思いを抱く

2年ほど前まで、私は子育てに全く関心がなく、気が向いたら子どもと接するくらいで、子どもとはほとんど会話をしない典型的なダメなパパでした。休日には、自分一人、社会人サッカーを楽しんでいました。子育ては全て妻に任せきりだったのです。

妻は、「育児ネットめむろ」が開催する子ども連れで談話を楽しめる「茶話会」に参加していました。その茶話会に、厚生労働省認定の「イクメンの星」である五十嵐 豊さん（芽室町在住、パパ・スイッチ事業実行委員長）がいらっしゃり、家族ぐるみでの交流が始まり、交流する中で、「このお父さんは何かが違う」と感じるようになりました。特に、五十嵐さんからは、「子育ては仲間がいると楽しい」ということを教わりました。

その後、NPO法人ファザーリング・ジャパンの安藤哲也氏の講演を聞き、私のダメパパぶりを思い知らされたとともに、これからの男性は育児に積極的に関わるべきとの思いを強くし、本格的に育児や家事に目覚めました。そして、「自分自身を変えたい」という気持ちで町のパパ・スイッチ事業の実行委員に自らの意思で加入しました。平成22年4月の発足当時から現在まで、同事業の実行委員を務めています。

活動の内容

父子が楽しめるイベントを企画・運営

実行委員会への参加、各種イベントの企画・運営などで、月に1回はパパ・スイッチ事業のメンバーと顔を合わせています。イベントは、子どもと父親が楽しめるものを企画するようにしています。実行委員のメンバーは、私よりも皆、年上ということもあり、その方々の豊富な経験に学びながら、イベントを自分たちの手で形にしています。

パパ・スイッチ事業以外でも、町の子育て支援団体「育児ネットめむろ」の運営委員、長男が在籍する幼稚園のPTA副会長として地域活動に関わっています。

◇パパ・スイッチ事業◇

「父親が子育てに参加しやすい環境を地域で作ろう」、「子どもが生まれたらパパの気持ちを家族にスイッチするお手伝いをしよう」といった気持ちから、町と「育児ネットめむろ」が協力して平成22年に立ち上げた子育て支援事業。

◇パパ・スイッチ事業の主な取り組み◇

- 「父親交流サイト」の開設・運営
- 父親同士の交流会の開催
- 講演会・イベント（家族料理教室、親子体操教室等）の実施



家族が喜ぶ姿を見ると、自分も元気に

私の子育て支援活動を見にきた妻や子どもが喜んでいる姿を目にすると、私自身も元気をもらい、やりがいにつながっています。子どもからは、「お父さん、今日はがんばったね」と言われます。妻からは、「以前とは別人のように、子育てに参加してくれるようになったね」と言われています。

子どもとの会話も、活動を始める前と比べるとずいぶん増えました。また、日々の子どもの成長に感謝するようになるなど、子どもに対する接し方や考え方が変わってきたと思います。さらに、最近では料理をすることも楽しくなっています。

周囲との関わり

ベテランの女性メンバーの存在が大きい

実行委員会のメンバーの中には、子育てのベテランの女性がいます。「育児ネットめむろ」の会長及び副会長で、このお二人がいることで、パパ・スイッチ事業の活動がより円滑に進められている気がしています。子育ての豊富な経験や女性ならではの視点は、お父さんたちが困ったときに助けられますし、会のまとめ役としても頼れる存在になっています。

家族も、私がパパ・スイッチ事業の活動をすることにに対して協力的です。実行委員会は基本的に夜間に開催されますが、妻は前向きに送り出してくれます。私も、できる限り妻の負担を減らそうと、子どもたちをお風呂に入れてから実行委員会に参加するようにしています。

直面した課題と解決方法

お父さん仲間がいる安心感。これがどんな課題も解決する力に

活動に対するモチベーションは、パパ・スイッチ事業実行委員会の仲間と会うことで維持できています。メンバーから受ける刺激は大変多く、できる限り、実行委員会には参加するようにしています。仕事との両立においては無理なくこなしてきましたが、仕事がどんなに大変な時でも、他のお父さんたちも苦勞をされていて、自分一人ではないと思えることが心の支えになっています。

現在、我々が抱えている課題は、「参加するメンバーが固定になってしまい、新しいお父さんが参加しないこと」です。パパ・スイッチ事業そのものが、他のお父さんたちのところまで届いていないことや、お父さん自身が参加してみようと思えるような、魅力的なイベントになっていないことが問題ではないかと考えています。このため、パパ・スイッチ事業の情報発信の仕方や内容の見直しにこれから取り組んでいかなければならないと思います。

これからの展望

子育てするパパのための集いの場をつくりたい

パパ・スイッチ事業での活動は、今後もずっと続けていきたいと思っています。

現在、新たな取り組みとして考えているのは、「手作りピザを作るための石窯を作って、子育てをしているお父さんたちにピザをふるまう」というもの。パパ・スイッチ事業のイベントの一つとして、「家族で楽しみながら食べられるイベントがあるといいね」という意見を具体化したものです。地域にある料亭の庭に石窯を置かせていただき、そこを子育てをするお父さんたちの集いの場としたいと思っています。さらには、地域の方々にも開放することで、より多くの人の交流にも役立てたいと考えています。